



5

自主的な活動を促すユニセフ募金 10年以上続く代表委員会の取り組み

報告者 東京都日野市立潤徳小学校長 宮崎 芳子先生

1. ポイント

本校は、東京都の西側に位置する日野市にある児童数802名の大規模校です。

望ましい集団活動を通して、一人ひとりが生き生きと活動できる特別活動を目指して、自主的実践的な態度を育てています。例えばクラブ活動は発起人制で、毎年、子どもたちが人数を募り作りたいクラブができます。

2. 実 践

ユニセフ募金は、3年生以上の代表委員会と5、6年生が構成メンバーのプログラム委員が中心になって10年以上継続して取り組んでいます。毎年、代表委員会の議題としてあがり、クラスでその意義が話し合われます。

募金活動をする前には、ユニセフ募金についての朝礼をしています。

代表委員会の代表とプログラム委員が大画面でパワーポイントを使ってユニセフの意義や支援の必要な国の暮らしや子どもたちの様子などを説明します。

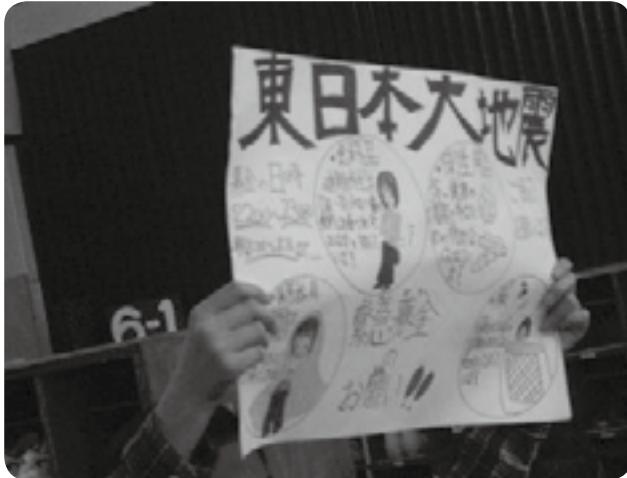


毎年工夫された方法で子どもたちがプレゼンテーションを行います。

他にも代表委員会だよりやポスターで全校に協力を呼びかける活動も行っています。



募金活動は、始業前の登校時刻に2つの昇降口で行われます。3日間、代表委員が募金箱をもって立ちます。「ご協力よろしくお願ひします。」の呼びかけは毎年の本校の風物詩です。



3月11日の震災の義援金募金もユニセフの活動が生きていました。「ユニセフ募金は外国の子どもたちのためだったけど日本の子どもも困っているからユニセフ募金のようにお金を集めたい。」という子どもの発案で代表委員会にかけられ、修了式の2日前に実行されました。

ある日の学校ホームページから・3日間のユニセフ募金日最終日



3、まとめ

子どもたちは、2日間で募金箱に入れてしまったのか、2日間よりたくさんではなかったみたいですが、3日目は大人の応援がたくさんありました。

たくさんの世界の子どもを助けてあげられます。3日間交代で箱を持って呼びかけをしていた代表委員会の子どもたち、お疲れ様でした。

